

## 2016 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	生存学研究センター
研究センター長名	立岩 真也

### I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

#### 成果の内容

2016 年度は、基盤テーマとする「障老病異」をめぐる研究活動として①学術研究事業(公開研究会・国際ワークショップの開催等)、②教育活動・社会連携事業(セミナー企画、当事者参画型活動等)、③研究活動と若手研究者育成との連携(研究プロジェクト、研究支援等)、④研究成果発信事業(センター報告刊行、電子ジャーナル発刊等)をおこなった。

#### ①学術研究事業

公開研究会・ワークショップ・シンポジウムを積極的に開催した(主催・共催等として 24 回開催)。とくに国際的な研究活動として、ドイツの研究者を招聘した国際ワークショップ、台湾社会学会での共催セッション、韓国・中国・台湾の障害当事者・研究者を招聘した国際セミナーを開催した。また、これらの企画は研究メンバーが保有する研究費(科研費、民間助成(村田学術振興財団、明治安田こころの健康財団等)、研究高度化推進制度等)のほか、学内組織(人間科学研究所、コア研究センター等)との連携活動としても実施された。

#### ②教育活動・社会連携事業

セミナー企画として連続セミナー「障害／社会」を 3 回開催したほか、映画上映を通じた教育・研究活動を 3 回開催した。当事者参画型の社会連携活動として、障害当事者団体との連携活動(TCI-ASIA(Transforming Communities for Inclusion in Asia) 報告会、津久井やまゆり園事件を考える集会)、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 難治性疾患実用化研究事業にかかわるセミナー(患者主体のQOL評価法「SEIQoL-DW」を学び、活かす実習セミナー)開催事業と連携した。

#### ③研究活動と若手研究者育成との連携

第 1 に、若手研究者と大学院生のチーム参加を必須とする研究プロジェクト制度を新たに構築し、「カタストロフィ／ヴァルネラビリティ」「東アジア生存学拠点形成」をテーマとする 4 つのプロジェクトに研究支援をおこなった。第 2 に、若手研究者研究力強化型「国際的研究活動」支援を継続し、ニュージーランド、韓国、台湾、中国、インドに関する研究活動 5 件に研究支援をおこなった。第 3 に、第 2 回「生存学奨励賞」を実施し、若手研究者への研究発展を奨励した。

#### ④研究成果発信事業

『生存学研究センター報告』(合計 3 号)に加え、研究センター監修によるブックレット『知のフロンティア——生存をめぐる研究の現場』(ハーベスト社)を刊行した。また、多言語(日英韓)での facebook、twitter、メールマガジンを更新した。研究成果の蓄積・公開については、情報保障機能をもちあわせた学術データベース arsvi.com(<http://www.arsvi.com/>) 上にてアーカイヴィング構築を継続しておこなった。

#### 意義と重要性

「障老病異」をめぐる研究活動は、自治体(長野市難病・小児慢性特定疾病対策地域協議会)からの協力要請のほか、マスメディアからの要請として 2016 年 3 月に刊行した報告書『戦後日本における女性障害者への強制的な不妊手術』と関連した TV 出演(NHK E テレ「ハートネット TV シリーズ障害のある女性」2016 年 7 月)、2016 年 7 月に起こった相模原障害者施設殺傷事件についての提言(NHK E テレ「バリバラ 緊急企画障害者殺傷事件を考える」2016 年 8 月、NewYorkTimes2016 年 9 月等)や若手研究者への取材(『朝日新聞』2016 年 6 月、『京都新聞』2016 年 10 月)に結びつくなど、実践的な社会貢献にもつながった。

## II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2017年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位	
センター長	立岩 真也	先端総合学術研究科	教授	
運営委員	井上 彰	先端総合学術研究科	准教授	
	上野 千鶴子	先端総合学術研究科	教授	
	大谷 いづみ	産業社会学部	教授	
	小川 さやか	先端総合学術研究科	准教授	
	栗原 彬	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	小泉 義之	先端総合学術研究科	教授	
	齋藤 龍一郎	衣笠総合研究機構	教授	
	桜井 政成	政策科学部	教授	
	サトウタツヤ	文学部	教授	
	鎮目 真人	産業社会学部	教授	
	千葉 雅也	先端総合学術研究科	准教授	
	長瀬 修	衣笠総合研究機構	教授	
	中村 正	産業社会学部	教授	
	西 成彦	先端総合学術研究科	教授	
	林 達雄	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	Paul Dumouchel	先端総合学術研究科	教授	
	富永 京子	産業社会学部	准教授	
	松原 洋子	先端総合学術研究科	教授	
	村本 邦子	応用人間科学研究科	教授	
	美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授	
	望月 茂徳	映像学部	准教授	
	安田 裕子	総合心理学部	准教授	
	やまだようこ	衣笠総合研究機構	教授	
渡辺 克典	衣笠総合研究機構	准教授		
渡辺 公三	先端総合学術研究科	教授		
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	金 友子	国際関係学部	准教授	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	櫻井 悟史	衣笠総合研究機構	専門研究員
		高 誠晩	衣笠総合研究機構	専門研究員
		中尾 麻伊香	衣笠総合研究機構	専門研究員
		岡野 英之	衣笠総合研究機構	専門研究員
		川端 美季	衣笠総合研究機構	専門研究員
		由井 秀樹	衣笠総合研究機構	専門研究員
	博士後期課程院生・一貫	橋本 雄太	先端総合学術研究科	院生

制博士課程 3 回生以上 在籍院生	青木 秀光	先端総合学術研究科	院生
	安 孝淑	先端総合学術研究科	院生
	今里 基	先端総合学術研究科	院生
	八木 達祐	先端総合学術研究科	院生
	小田 英里	先端総合学術研究科	院生
	李 旭	先端総合学術研究科	院生
	桐原 尚之	先端総合学術研究科	院生
	小井戸 恵子	先端総合学術研究科	院生
	岸田 典子	先端総合学術研究科	院生
	酒井 美和	先端総合学術研究科	院生
	八木 慎一	先端総合学術研究科	院生
	吉田 知恵子	先端総合学術研究科	院生
	葛城 貞三	先端総合学術研究科	院生
	白杉 眞	先端総合学術研究科	院生
	高坂 悌雄	先端総合学術研究科	院生
	金野 大	先端総合学術研究科	院生
	窪田 好恵	先端総合学術研究科	院生
	三輪 佳子	先端総合学術研究科	院生
	白田 幸治	先端総合学術研究科	院生
	西沢 いづみ	先端総合学術研究科	院生
山口 真紀	先端総合学術研究科	院生	
伊東 香純	先端総合学術研究科	院生	
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	高橋 慎一	文学部	非常勤講師
	堀江 有里	経営学部	非常勤講師
	村上 慎司	先端総合学術研究科	指導助手
客員協力研究員	有馬 斉	横浜市立大学国際総合科学群	准教授
	青木 慎太郎	フリーランス講師	自営
	太田 啓子	独立行政法人国立病院機構 大 阪医療センター附属看護学校	非常勤講師
	打浪 文子	淑徳大学短期大学部こども学科	講師
	加藤 有希子	埼玉大学基盤教育研究センター	准教授
	北村 健太郎		
	新山 智基	神戸国際大学ブルーリ潰瘍問題 支援プロジェクト (Project SCOBU)	幹事
	横田 陽子		

	能勢 桂介		
	牧 昌子	京都府国民健康保険	審査会委員
	浦田 悠	大阪大学教育学習支援センター	特任講師
	大野 光明	日本学術振興会	特別研究員
	河口 尚子	名古屋市立大学他	非常勤講師
	小林勇人	日本福祉大学	准教授
	定藤 邦子	定藤記念福祉研究会	世話人
	渋谷 光美	羽衣国際大学人間生活学部	准教授
	利光 恵子	としまつ薬局	経営
	安田 真之	京都産業大学ボランティアセンター	特定職員
	安原 荘一	全国「精神病」者集団	会員
	小西 真理子	日本学術振興会	特別研究員 (PD)
	櫻井 浩子	東京薬科大学薬学部	准教授
	青木千帆子	静岡県立大学グローバル・スタ ディーズ研究センター	客員共同研究員
	箱田 徹	大阪市立大学都市研究プラザ	特任助教
	一宮 茂子		
	萩原 三義	相生鍼灸	
	山本 由美子	大阪府立大学現代システム科学 域・人間社会学研究科	教員
	安部 彰	大阪市立大学/甲南大学/京都橘 大学	非常勤講師
	ワフユディ理沙	東大阪大学短期大学部	専任講師
	川口 有美子	有限会社 ケアサポートモモ	代表取締役
	有吉 玲子	松島医院	看護師長
	田中 慶子	広島修道大学人文学部	助教
	長谷川 唯	日本学術振興会	特別研究員 (PD)
	玉井 隆	特定非営利活動法人アフリカ日 本協議会	理事
	金 政玉	明石市福祉部福祉総務課	障害者施策担当課 長 兼 政策部政 策室課長
	番匠 健一	同志社大学 奄美・琉球・沖縄セ ンター	研究員
	田邊 健太郎		
	橋口 昌治	立命館大学	非常勤講師

	川田 薫	株式会社サーベイリサーチセンター	マーケティング課
	天田 城介	中央大学文学部	教授
	小辻 寿規	京都橘大学現代ビジネス学部	助教
	土橋 圭子	愛知県立春日台特別支援学校	教諭
	永田 貴聖	国立民族学博物館	機関研究員
	山田裕一	特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン、障害学生パートナーシップネットワーク	
	田中 壮泰	日本学術振興会	特別研究員 (PD)
	藤原 良太		
	蒲生 諒太	京都大学大学院教育学研究科	博士後期課程
	吉田 幸恵	東京大学医科学研究所	特任研究員
	角崎 洋平	日本学術振興会	特別研究員
	谷村 ひとみ		
	岡本 晃明	京都新聞社編集局	報道部長代理
	尾上 浩二	内閣府障害者施策アドバイザー、DPI 日本会議	
	村上 潔	神戸市外国語大学	非常勤講師
	中倉 智徳	立命館大学	非常勤講師
	大貫 菜穂		
	松波 めぐみ	大阪市立大学他	非常勤講師
	孫 美幸	大阪大学大学院人間科学研究科 附属未来共創センター	講師
	仲尾 謙二	京都府庁	職員
	飯田 奈美子		
	孫 美幸	大阪大学大学院	講師
	吉野 靱		
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	堀田 義太郎	東京理科大学理工学部	講師
	大谷通高		
研究所・センター構成員 計 121 名 (うち学内の若手研究者 計 29 名)			

### Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2017年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	立岩 真也	On Private Property, English Version	単著	2016年9月	Kyoto Books		
2	大谷 いづみ	「第9章 人間の尊厳と死——「死の尊厳」の語られ方を読み解く」、柏木恵子・高橋恵子編『人口の心理学へ——少子高齢社会の命と心』	分担執筆	2016年7月	ちとせプレス	柏木恵子・高橋恵子編、小泉智恵・平山史朗、玉井真理子、太田薫子、富田直子、永久ひさ子、松橋恵子、染谷淑子、大谷いづみ、小谷みどり、森岡清美、西平直、加藤英明、杉浦浩美、本田由紀、平木典子、川崎二三彦、深谷昌志、菅原育子、神前裕子、柳谷慶子、畠中雅子	183-197
3	小川 さやか	「その日暮らし」の人類学	単著	2016年7月	光文社新書		
4	桜井 政成	市民社会論: 理論と実証の最前線	共著	2017年2月	法律文化社	坂本 治也(著, 編集), 田村 哲樹(著), 山本 英弘(著), 吉田 忠彦(著), 丹羽功(著), 藤田 俊介(著), 桜井 政成(著), 善教 将大(著), 小田切 康彦(著), 仁平 典宏(著), 岡本 仁宏(著), 森 裕亮(著), 足立 研幾(著), 後 房雄(著), 樋口 直人(著)	110-124
5	サトウ タツヤ	Making of the Future: Trajectory Equifinality Approach	共編著	2016年9月	Information Publishing Age	Tatsuya Sato, Naohisa Mori and Jaan Valsiner	1-207
6	サトウ タツヤ	高橋登・山本登志哉(編)『おこづかいの文化発達心理学』	共著	2016年9月	新曜社		199-212
7	サトウ タツヤ	Collected papers on Trajectory Equifinality Approach	単著	2017年3月	Chitose Press	Tatsuya Sato	1-213
8	千葉 雅也	SHINCHO MOOK NEW WORLD「新日本プロレスワールド」公式ブック	分担執筆	2016年6月	新潮社	新潮社編	71-73: 力の放課後——プロレス試論
9	千葉 雅也	B面がA面にかわる時増補版	分担執筆	2016年9月	鹿島出版会	長坂常ほか	146-150: フレーミングとオブジェクト——長坂常のリノベーション作品について
10	千葉 雅也	現代思想の転換 2017—知のエッジをめぐる五つの対話	共著	2017年1月	人文書院	篠原 雅武	133-172: [対談] ナマコとヤドカリ
11	富永 京子	社会運動のサブカルチャー化——G8 サミット抗議行	単著	2016年9月	せりか書房		

		動の経験分析					
12	富永 京子	社会運動と若者——日常と出来事を往還する政治	単著	2017年3月	ナカニシヤ出版		
13	長瀬 修	Japan and the CRPD-achievements and challenges”, A Chant for Life: Ten Years of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities 2006-2016	分担執筆	2016年11月	Office of the Special Envoy on Disability and Accesibility		65-66
14	長瀬 修	生存学研究センター報告 29 障害学国際セミナー 2016: 法的能力 (障害者権利条約第 12 条) と成年後見制度	共編著	2017年3月	立命館大学生存学研究センター	長瀬修共編 (共編者: 桐原尚之、伊東香純)	1-301
15	松原 洋子	「図書館の障害者サービスと電子書籍」	単著	2017年1月	東洋大学出版会	松原聡編『電子書籍アクセシビリティの研究』	65-89
16	村本 邦子	子どもと離婚～合意解決と履行の支援	共著	2016年4月	信山社	二宮周平・渡辺惺之編 (第2章 III-2「ドイツ・シュトゥットガルトにおける機関連携」・第3章 I「複雑な家族問題のために子どもを中心にした解決を創造する」翻訳+補論)	193-196、215-227
17	村本 邦子	児童心理学の進化 (書評: 山極寿一『家族進化論』)	単著	2016年6月	金子書房	稲垣佳代子・河合優都市・斉藤こずゑ・高橋恵子・高橋知音・山祐輔 (編集)	322-326
18	美馬 達哉	昭和後期の科学思想史	分担執筆	2016年6月	勁草書房	金森修編	
19	美馬 達哉	シリーズ精神医学の哲学3 精神医学と当事者	分担執筆	2016年11月	東京大学出版会		
20	美馬 達哉	ブレインサイエンス・レビュー2017	分担執筆	2017年2月	クパプロ		271-282
21	安田 裕子	不妊治療と夫婦関係 (宇都宮博・神谷哲司 (編), 夫と妻の生涯発達心理学—関係性の危機と成熟)	単独	2016年5月	福村出版		103-116
22	安田 裕子	周産期・乳児期における死 (川島大輔・近藤恵 (編), はじめての死生心理学—現代社会において、死とともに生きる)	単独	2016年10月	新曜社		85-99
23	安田 裕子	How can the diversity of human lives be expressed using TEM?: Depicting the experiences and choices of infertile women unable to conceive after infertility treatment.(Sato, T., Mori, N., & Valsiner, J.(Eds), MAKING OF THE FUTURE: The Trajectory Equifinality Approach in Culture Psychology)	共同	2016年	Information Publishing Age		in press

24	安田 裕子	支援者支援—DV被害に遭った母子を支える支援者への支援 (稲葉光行他 (編), ワードマップ法心理・司法臨床)	単独	2016年	新曜社		印刷中
25	渡辺 克典	生存学研究センター報告 28 障害／社会をめぐる新たな展開と課題 連続セミナー「障害／社会」3	編著	2017年3月	立命館大学生存学研究センター	渡辺克典編	1-2,133-134
26	渡辺 克典	知のフロンティア——生存をめぐる研究の現場	共編著	2017年3月	ハーベスト社	立命館大学生存学研究センター監修・渡辺克典編	7-9,26-27,50-51
27	やまだ ようこ	新・発達心理学ハンドブック(分担執筆)	分担執筆	2016年	福村出版	田島信元・岩立志津夫・長崎勤編	792-801
28	やまだ ようこ	言語発達とその支援(分担執筆)「前言語的コミュニケーション」	分担執筆	2016年	ミネルヴァ書房	秦野悦子・高橋登(編)	
29	やまだ ようこ	『中学校道徳 あすを生きる2』(分担執筆)「包む」	分担執筆	2016年	日本文教出版		126-129
30	梁陽日	グループワークテキスト(増補改訂版)	単著	2016年4月	大阪市職業リハビリテーションセンター・大阪市職業指導センター・サテライトオフィス平野		全90p
31	角崎 洋平	『福祉+α⑨ 正義』	共著	2016年4月	ミネルヴァ書房	後藤玲子編	pp.119-131
32	櫻井 浩子	「医学的無益性」の生命倫理	共著	2016年10月	山代印刷出版部	編著: 櫻井浩子, 加藤太喜子, 加部一彦 執筆: 板井孝彦, 加部一彦, 櫻井浩子, 門岡康弘, 齋藤信也, 加藤太喜子, 野崎亜紀子, 土屋貴志	29頁～52頁
33	孫 美幸	日本と韓国における多文化共生教育の新たな地平	単著	2017年2月	ナカニシヤ出版	孫 美幸	全293頁
34	永田 貴聖	日比 10 万人時代—二つのルーツを活かす	共著	2016年12月	『フィリピンを知るための64章』明石書店	大野拓司、鈴木伸隆、日下渉編	370～374頁
35	永田 貴聖	イロイロ めくもりの記憶—シンガポールのフィリピン人事労働者について	共著	2016年11月	『ワールドシネマ・スタディーズ—世界の「いま」を映画から考えよう』勉誠出版	小長谷有紀、鈴木紀、旦匡子編	271～278頁
36	村上 潔	『ジュンク堂書店難波店ブックフェア「ラディカル地理学のススメ」パンフレット』	共著	2016年12月	洛北出版	原口剛・北川真也(＋村上潔・酒井隆史)	p.11
37	村上 潔	『母子世帯の子育ての困難をめぐる重層的要因—子育て関連ケイパビリティの検討と大阪府の支援団体調査からの分析』(全労済協会: 公募研究シリーズ 65)	共著	2017年2月	一般財団法人全国勤労者福祉・共済振興協会	村上潔(研究代表者)編	pp.1-47(全体)
38	村上 潔	『研究のフロンティア: 生存をめぐる研究の現場』(知のアート・シリーズ)	共著	2017年3月	ハーベスト社	立命館大学生存学研究センター監修・渡辺克典編	
39	川端 美季	『近代日本の公衆浴場運動』	単著	2016年8月	法政大学出版局		
40	小西 真理子	「共依存——依存的な関係性を考える」	単著	2017年3月	ハーベスト社、『研究のフロンティア: 生存をめぐる研究の現場 (知のアート・シリーズ)』	渡辺克典編	pp.36-37.
41	岡野英之	アフリカの「青年層」—潜在力か、それとも紛争の社会的な要因か?	単著	2016年	『武力紛争を越える——せめぎ合う制度と戦略の中で』(アフリカ潜在力2) 京	遠藤 貢 編	



					都大学学術出版会		
--	--	--	--	--	----------	--	--

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	立岩真也	「生の現代のために・12——連載123」	単著	2016年4月	『現代思想』(44巻10号)			
2	立岩真也	「生の現代のために・13——連載124」	単著	2016年5月	『現代思想』(44巻12号)			
3	立岩真也	「生の現代のために・14——連載125」	単著	2016年6月	『現代思想』(44巻13号)		18-29	
4	立岩真也	「生の現代のために・15——連載126」	単著	2016年7月	『現代思想』(44巻15号)		16-27	
5	立岩真也	「七・二六殺傷事件後に」	単著	2016年8月	『現代思想』(44巻17号)		196-213	
6	立岩真也	「七・二六殺傷事件後に2」	単著	2016年9月	『現代思想』(44巻19号)		133-157	
7	立岩真也	「生の現代のために・16——連載127」	単著	2016年10月	『現代思想』(44巻21号)		16-28	
8	立岩真也	「生の現代のために(番外篇)——連載128」	単著	2016年11月	『現代思想』(44巻22号)		89-21	
9	井上彰	"Can Luck Egalitarianism Serve as a Basis for Distributive Justice? A Critique of Kok-Chor Tan's Institutional Luck Egalitarianism"	単著	2016年	Law and Philosophy			
10	大谷いづみ	「安楽死・尊厳死をめぐる歴史的・社会的背景」(特集「終末期医療の国民的議論」に向けて)	単著	2016年9月	『月刊保団連』(1223号)		4-9	
11	大谷いづみ	「生きるに値しない生命終結の許容」はどのように語られたか——日本法学界における「安楽死・尊厳死」論史の一断章(緊急特集:相模原障害者殺傷事件)	単著	2016年10月	『現代思想』(44巻19号)		102-113	
12	小川さやか	「第7章<借り>をまわすシステム——タンザニアにおける携帯を通じた送金システムを事例に」	単著	2016年7月	岸上伸啓編『贈与論再考』臨川書店			
13	小川さやか	等身大のアフリカもうひとつの資本主義をめぐる人類学	単著	2016年7月	SYNODOS			
14	小川さやか	歓待と無関心のあいだ	単著	2016年12月	考える人			
15	小川	不透明な未来を見据	単著	2017年1	教育と文化(86号)			

	さやか	えた「ゆとり」を育む 社会関係		月				
16	小川 さやか	機略に満ち溢れたイン フォーマル経済ー タンザニアの模造品 取引を事例に	単著	2017年2 月	稲賀繁美編『海賊史観からみた世界史の再構 築』思文閣出版			
17	小川 さやか	日本人の忘れ物 知 恵会議～未来を拓く 京都の集い「見失っ ている人間個人の余 裕	単著	2017年1 月	京都新聞			
18	小泉 義之	デカルト——存在と 実存：「私」と「現」 における	単著	2016年	秋富克哉他編『続・ハイデガー読本』			
19	小泉 義之	過渡期の精神	単著	2016年	現代思想(44巻17号)			
20	小泉 義之	真理の探究における 同伴者——木村敏の 離人症論に寄せて	単著	2016年	現代思想(44巻20号)			
21	サトウ タツヤ	History of “History of Psychology” in Japan	共著	2016年	Japanese Psychological Research(58巻SP1 号)	Tatsuya Sato, Hazime Mizoguchi, Ayumu Arakawa, Souta Hidaka, Miki Takasuna and Yasuo Nishikawa	110-128	
22	サトウ タツヤ	Editorial: History of Psychology in Japan and Within the Context of East Asia (pages 1-3)	共著	2016年	Japanese Psychological Research(58巻SP1 号)	Tatsuya Sato1 and Yasuhiro Omi		
23	鎮目 真人	日本における年金の 公私ミックスの動向 と課題	単著	2017年2 月	季刊 個人金融(2017年冬号)		1-12	
24	千葉 雅也	[対談] 神は偶然に やって来る一思弁的 実在論の展開につい て	共著	2016年4 月	ゲンロン(2号)	東 浩紀, 千葉 雅也	192-216	
25	千葉 雅也	The Desire Called Speculative Realism	共著	2016年4 月	Blog of Alexander R. Galloway	Masaya Chiba, Alexander R. Galloway		
26	千葉 雅也	A "GPL" for Metaphysics	共著	2016年4 月	Blog of Alexander R. Galloway	Masaya Chiba, Alexander R. Galloway		
27	千葉 雅也	単純素朴な暴力につ いて	単著	2016年5 月	理(45号)	千葉 雅也	2-3	
28	千葉 雅也	[対談] 絵の本質を 問う「ズレ」と「トチ ギ」	共著	2016年6 月	小説 TRIPPER(5376号)	田幡 浩一, 千 葉 雅也	294-307	
29	千葉 雅也	[討議]「ポスト構造 主義以後」の現代思 想	共著	2016年7 月	週刊読書人(2016年7月8日号)	大橋 完太郎, 千葉 雅也, 星 野 太	1-2	
30	千葉 雅也	[インタビュー] モ ードの重要キーワー ド「ジェンダーレス」 とは?	単著	2016年 10月	GINZA(20巻11号)	千葉 雅也	186	

31	千葉雅也	世界の非理由、あるいは儀礼性—メイヤサー『有限性の後』から出発して	単著	2016年11月	比較文明(32号)	千葉雅也	57-61	
32	千葉雅也	[対談] ポスト精神的人間—ヘーゲルヘルス時代の〈生活〉	共著	2016年11月	at プラス(30号)	千葉雅也, 松本卓也	4-31	
33	千葉雅也	不完全性の権威	単著	2016年11月	ちくま(548号)	千葉雅也	14-15	
34	千葉雅也	[討議] 「切断」の哲学と建築—非ファルスの膨らみ/階層性と他者/多次的近傍性	共著	2016年12月	10+1 web site(2016-12号)	千葉雅也, 門脇耕三, 平田晃久, 松田達, 平野利樹		
35	千葉雅也	[翻訳] アラン・ロブ＝グリュエ「新訳 快楽の館 (抄)」	単著	2016年12月	早稲田文学(10巻17号)	千葉雅也	6-12	
36	千葉雅也	此性をもつ無—メイヤサーから九鬼周造へ	単著	2016年12月	現代思想(44巻23号)	千葉雅也	70-73	
37	長瀬修	NGO レポート作成に向けて	単著	2016年4月	DPI(32巻1号)		22-23	
38	長瀬修	障害者権利条約と障害者差別解消法、改正障害者雇用促進法	単著	2016年5月	作業療法ジャーナル(46巻1号)		460-464	
39	長瀬修	障害者権利条約における『言語』の定義の交渉過程	単著	2016年6月	リハビリテーション研究(46巻1号)		4-9	
40	長瀬修	知的障害者とセルフアドボケート、障害者と障害当事者	単著	2016年6月	福祉労働(151号)		124-125	
41	長瀬修	障害者権利条約第9回締約国会議—障害者権利委員会委員選挙2016	単著	2016年9月	ノーマライゼーション(36巻9号)		45-47	
42	長瀬修	相模原障害者殺傷事件—海外からのメッセージ	単著	2016年9月	福祉労働(152号)		136-137	
43	長瀬修	イタリアの審査と女性障害者 (第6条)	単著	2016年10月	DPI(32巻3号)		43-45	
44	長瀬修	東アジアの障害学国際セミナー2016—台湾の新たな参加	単著	2016年12月	福祉労働(153号)		136-137	
45	長瀬修	障害者権利委員会第17会期の概要と特徴—カナダの審査	単著	2017年1月	DPI(32巻4号)		38 - 41	
46	長瀬修	障害者権利条約と障害者差別解消法	単著	2017年2月	LD研究(26巻1号)		56-63	
47	長瀬修	国際育成会連盟理事・アジア太平洋地域代表を12年間務めて (上)	単著	2017年3月	手をつなぐ(733号)		36-37	
48	長瀬修	追悼 ベンクト・リンクピスト (1936-2016)	単著	2017年3月	福祉労働(154号)		106-107	
49	中村正	臨床社会学の方法 (13)社会構築主義	単著	2016年6月	対人援助学マガジン(7巻1号)		20-29	
50	中村正	暴力臨床の実践と理論	単著	2016年7月	季刊 刑事弁護(87号)		74-77	
51	中村	臨床社会学の方法	単著	2016年9月	対人援助学マガジン(7巻2号)		28-39	

	正	(14)男らしさのラビリンス (迷宮)		月					
52	中村正	臨床社会学の方法 (15) 社会的孤立と感情的苦痛—嗜癖と嗜虐の背後にあるもの—	単著	2016年12月	対人援助学マガジン(第7巻第3号)			23-35	
53	中村正	孤立する関係性とドメスティック・バイオレンス : 三重の沈黙化作用(サイレンシング)	単著	2017年1月	青少年問題(第62巻秋季号 (通巻665)号)			10-17	
54	中村正	臨床社会学の方法 (16) 治療的司法	単著	2017年3月	対人援助学マガジン(第7巻第4号)			22-32	
55	中村正	不安定な男性性と暴力	単著	2017年3月	立命館産業社会論集(第52巻第4号)			1-17	
56	西成彦	日本語文学の拡散、収縮、離散	単著	2016年4月	淡江日本論叢(32巻)			71-91	
57	西成彦	ブルースト、ジョイス、ゴンブローヴィチ	単著	2016年6月	ジョイス研究(27巻)			116-123	
58	富永京子	Social Reproduction and the Limitations of Protest Camps: Openness and Exclusion of Social Movements in Japan	単著	2017年1月	Social Movement Studies(17巻2号)			1-17	
59	松原洋子	「大学図書館における障害者サービス」	単著	2016年7月	『図書館雑誌』(110巻7号)			414-415	査読無
60	松原洋子	「大学図書館のアクセシビリティテキストデータ提供サービスを中心に」	単著	2016年7月	『図書館界』(68巻2号)			96-101	査読無
61	松原洋子	「大学図書館におけるプリント・ディスプレイのある利用者に対する環境整備と合理的配慮提供の課題—立命館大学図書館のテキストデータ提供サービスを事例に」	共著	2016年11月	『図書館界』(68巻4号)	植村要		266-278	査読有
62	松原洋子	「障害者から産むことを奪った強制不妊手術」	単著	2016年12月	『女も男も』(128号)			29-34	査読無
63	松原洋子	「人口問題の設定と生殖への介入—三論文へのコメント」	単著	2017年3月	由井秀樹・松原洋子編著『インクルーシブ社会研究 生殖と人口政策、ジェンダー』(16巻)	松原洋子		80-83	査読無
64	村本邦子	周辺からの記憶 11 : 2013年度むつ・多賀城・宮古	単著	2016年6月	対人援助学マガジン(7巻1号)			176-190	
65	村本邦子	周辺からの記憶 12 : 災害とコミュニティ—物語、記憶、レジリエンス	単著	2016年9月	対人援助学マガジン(7巻2号)			151-168	
66	村本邦子	周辺からの記憶 13 : 2013年度福島・シンポジウム	単著	2016年12月	対人援助学マガジン(7巻3号)			160-173	
67	村本邦子	「女性活躍」を問う	単著	2016年12月	国際社会福祉情報(第40号)			55-60	

68	村本邦子	境界を超える～場(トボス)への回帰	単著	2017年2月	女性ライフサイクル研究(25巻)		4-12	
69	村本邦子	周辺からの記憶 14: 2014年度日本コミュニティ心理学会・むつ	単著	2017年3月	対人援助学マガジン(7巻4号)		168-179	
70	美馬達哉	書評「高野麻子著『指紋と近代 移動する身体の管理と統治の技法』」	単著	2016年5月	週刊読書人(2016/5/6号)			
71	美馬達哉	脳波コヒーレンス	単著	2016年7月	Clinical Neuroscience(34巻7号)		766-770	
72	美馬達哉	Motion-induced disturbance of auditory-motor synchronization and its modulation by transcranial direct current stimulation (tDCS)	共著	2016年4月	Eur J Neurosci.(43巻4号)	Ono, K., Mikami, Y., Fukuyama, H. and Mima, T	509-515	
73	美馬達哉	Spatiotemporal Organization and Cross-Frequency Coupling of Sleep Spindles in Primate Cerebral Cortex.	共著	2016年9月	Sleep(39巻9号)	Takeuchi, S., R. Murai, H. Shimazu, Y. Isomura, T. Mima and *T. Tsujimoto	1719-1735	
74	美馬達哉	Stress Recovery Effects of High- and Low-Frequency Amplified Music on Heart Rate Variability	共著	2016年	Behavioural Neurology	Nakajima, Y., Tanaka, N., Mima, T., Izumi, S.	8	
75	美馬達哉	Combination of Static Magnetic Fields and Peripheral Nerve Stimulation Can Alter Focal Cortical Excitability	共著	2016年	Front Hum Neurosci(10巻)	Nojima, I., S. Koganemaru and *T. Mima	598	
76	美馬達哉	Neural pattern similarity between contra- and ipsilateral movements in high-frequency band of human electrocorticograms.	共著	2016年	Neuroimage.(in press 巻)	Fujiwara, Y., R. Matsumoto, T. Nakae, K. Usami, M. Matsuhashi, T. Kikuchi, K. Yoshida, T. Kunieda, S. Miyamoto, T. Mima, A. Ikeda and *R. Osu		
77	美馬達哉	脱精神医学化の二つのエッジ RDoC (研究領域基準) とマッドネス	単著	2016年9月	現代思想(44巻17号)		73-89	
78	安田裕子	法と心理学会第16回大会 ワークショップ 児童期の性的虐待被害とその回復をめぐる法心理 2—ドイツ・韓国調査の報告(指定討論—臨	共著	2016年10月	法と心理(16巻1号)	松本克美・金成恩		

		床心理学的観点から)						
79	安田裕子	書評「抱井尚子(2015)混合研究法入門—質と量による統合のアート 医学書院」	単著	2016年9月	質的心理学フォーラム,質的心理学フォーラム		104-105	
80	やまだようこ	「老いることの意味を問う」	単著	2016年	生存学(9号)	やまだようこ	274-276	
81	やまだようこ	「かわいい」と感じるのはなぜか?—ビジュアル・ナラティブによる異種むすび法	共著	2016年	質的心理学研究	やまだようこ・木戸彩恵		
82	やまだようこ	書評『ライフストーリー研究に何ができるか—対話的構築主義の批判的継承』	単著	2016年	社会言語科学(19巻1号)	やまだようこ	221-223	
83	渡辺克典	書評応答『触発するゴフマン』書評(本誌XV(2015)掲載)への応答	共著	2016年11月	社会言語学(16巻)	渡辺克典・中河伸俊	241-243	
84	伊東香純	支援された意思決定と代理意思決定の違い—国連障害者権利条約採択までの過程から	単著	2017年3月	『Core Ethics』第13号	立命館大学先端総合学術研究科		
85	伊東香純	決定を認められてこなかった人たちの代理意思決定への批判—国連障害者権利条約採択までの過程から	単著	2017年3月	『生存学研究センター報告』第28号			
86	桐原尚之	眠れない休めない—精神障害者の休息・睡眠を阻む社会	単著	2016年4月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』28(1)	長谷川 唯・桐原 尚之	243-254	
87	桐原尚之	精神保健福祉法改正をめぐる”権利擁護者”の位置について	単著	2016年6月	『現代思想』44(18)、青土社		174-179	
88	桐原尚之	最近流行りのオルタナティブと意思決定支援に対する反論	単著	2016年9月	『現代思想』44(17)、青土社		214-218	
89	桐原尚之	“役に立たない”“危険な人間”二つの苦しみ—精神障害者の立場から捉えた津久井やまゆり園事件	単著	2016年10月	『大阪精神医療人権センターニュース』129.		6-8	
90	桐原尚之	他人の介入によって立ち現れるカタストロフィ—ディスアビリティの解消をめぐる	共著	2016年9月	『支援』6、生活書院		167-171	
91	権藤真由美	ヴェトナムにおける障害者の「自立生活」の現状と課題—ハノイ自立生活センターへの調査から—	単著	2017年3月	ハーベスト社、『研究のフロンティア：生存をめぐる研究の現場 (知のアート・シリーズ)』	渡辺克典編		
92	谷村ひとみ	離婚した女性はどのように生きてきたのか—子育てを終えたシングルマザーの老後戦略	単著	2017年3月	ハーベスト社、『研究のフロンティア：生存をめぐる研究の現場 (知のアート・シリーズ)』	渡辺克典編		

93	加藤有希子	障害者、補助機器、バリアフリー……そしてアート	単著	2017年3月	ハーベスト社、『研究のフロンティア：生存をめぐる研究の現場（知のアート・シリーズ）』	渡辺克典編		
94	飯田奈美子	「コミュニティ通訳者の役割考察——公正介入基準の検討」博論要旨	単著	2016年12月	「通訳翻訳研究への招待」16号	日本通訳翻訳学会		
95	加藤有希子	“Silent Radicals: Report on The Saitama Triennial 2016, Japan,”	単著	2016年12月	International Association for Aesthetics Newsletter, Volume 48		9-11	
96	加藤有希子	「今、私たちはアートに何を求めているのか——さいたまトリエンナーレ 2016 サポーターアンケートを軸に考える」	単著	2017年3月	埼玉大学紀要（教養学部）第52巻第2号			
97	角崎洋平	「低所得世帯・要保護世帯向けリバースモーゲージの現状と課題」	共著	2016年9月	『社会福祉学』57巻2号	角崎洋平・村上慎司	pp.119-131	
98	櫻井浩子	重篤な疾患をもつ子どもへの対応と話し合い：18 トリソミーの会員アンケートより	単著	2016年4月	周産期医学, 46(4)	櫻井浩子	489-494	
99	櫻井浩子	18 トリソミーと出生前診断:NIPTの議論を中心に	単著	2016年4月	日本周産期・新生児医学会雑誌, 51(5)	櫻井浩子	1480-1482	
100	孫美幸	伝承民話集『聴耳草子』における「異人」たちと「多文化共生」～日本社会における多文化共生教育のあり方を考えるために	単著	2017年2月	ホリスティック教育研究第20号	孫美幸		
101	田邊健太郎	音楽美学を研究する悦び	単著	2016年9月	立命館大学生存学研究センター 研究の現場			
102	能勢桂介	「格差・貧困の根本要因とその対応——子どもたちのために何をすべきか？」	単著	2016年5月	『長野の子どもの白書 2016』		pp.80-83	
103	能勢桂介	「国際結婚女性とその子どもの貧困——複雑さと地域支援の限界」	単著	2016年5月	『長野の子どもの白書 2016』		pp.100-103	
104	番匠健一	日本統治期台湾における「植民論」と「植民地的近代」——後藤新平と高岡熊雄の関係に着目して——	単著	2017年	文藻大学（台湾）、『日本學研究叢書』	番匠健一著		
105	番匠健一	災害難民とコロニアリズムの交錯：十津川村の北海道移住の記憶と語り	単著	2017年10月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』、29巻2号	井上彰編・番匠健一著		
106	村上潔	【美の散歩道 46】アート／書物の枠を超えて形成される文化の場」	単著	2016年4月	『Gallery SHIMADA & Art Support Center Kobe INFORMATION 2016.4』ギャラリー島田／アート・サポート・センター神戸	島田誠ほか編	p.3	

107	村上 潔	「西山敦子「震える 指先」に寄せて」	単著	2016年4 月	http://www.arsvi.com/2010/1604mk7.htm	村上潔			
108	村上 潔	「 Report: ASIAN ZINESTER ASYLUM (September 13, 2016 / Shinjuku, Tokyo)」	単著	2016年9 月	http://www.arsvi.com/2010/20160923mk.htm	村上潔			
109	村上 潔	「 A Collection of Suggestions about Zines (Vol.1)」	単著	2016 年 12 月	(Zine)	村上潔	pp.1-12 (全体)		
110	由井 秀樹	「体外受精の臨床応 用と日本受精着床学 会の設立」	単著	2016年5 月	日本科学史学会、『科学史研究』		118-132		
111	堀江 有里	初期エイズにおける 女性の身体と人権 ——複合的リスクと 不可視性をめぐる一 考察	単著	2016年6 月	(公財)世界人権問題研究センター『研究紀要』 第21号		61-81 頁	査 読 有	
112	堀江 有里	「(反婚)のフェミニ スト神学 ——レズ ビアン・アイデンテ ィティーズの視点か ら」(研究ノート)	単著	2016年4 月	『日本フェミニスト神学・宣教センター通信』 第98号		1-7 頁		
113	堀江 有里	日本における同性カ ップルの権利保障を めぐる可視化戦略の 陥穽	単著	2016 年 10 月	日本ジェンダー学会『日本ジェンダー研究』第 19号		34-44 頁		
114	堀江 有里	コミュニティからネ ットワークへ —— 異性愛主義を問うキ リスト者の共同性	単著	2017年1 月	国際宗教研究所『現代宗教2017』		81-100 頁		
115	堀田 義太郎	ヘイトスピーチ・差 別・マイノリティ	単著	2016 年 11 月	『女性・戦争・人権』第14号		49-63 頁		
116	堀田 義太郎	アイリス・マリオン・ ヤング著(岡野八代・ 池田直子訳)『正義へ の責任』(書評)	単著	2016 年 11 月	『女性・戦争・人権』第14号		136-143 頁		
117	今里 基	「ニューカマの日韓 ダブルの祖国留学」 から見るエスニック アイデンティの考察 —— オールドカマ との比較から——	単著	2017年3 月(掲載 予定)	『Core Ethics』、13巻(号)			査 読 有	
118	山口 健一	在日朝鮮人の個人主 義的な民衆文化運動 と共生実践	単著	2016 年 10 月	『ソシオロジ』187号		21-38 頁	査 読 有	
119	山口 健一	社会理論と事例研究 の間で「生の技法を 分析する」	単著	2016 年 10 月	『都市経営』No.9		35-51 頁		

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	立岩真也	一つのための幾つか	2016年12月	第36回びわこ学園実践研究発表会全 体講演	
2	立岩真也	Ability, Dis-Ability, Ableism	2016年11月	台湾社会学会	
3	小川 さやか	Living for Today の人類学 ——不確実な世界を生き抜 くための狡知	2016年5月	成安造形大学キャリアサポートセン ターにおけるセミナー	



4	小川 さやか	「負債」から「借り」へー タンザニアにおける携帯 を通じた送金システム(M- pesa)を事例に	2016年6月	日本アフリカ学会第53回学術大会	
5	小川 さやか	Copy Mobile Phone, Tanzania and China	2016年11月	Round table "Low-end Globalization on Three Continents"	
6	桜井 政成	Did Japanese social welfare NPOs fail? Some evaluation about emerging social enterprises and major transformation	2016年4月	InterAsian Connections V: Seoul Workshop - The Social Economy and Alternative Development Models in Asia	
7	桜井 政成	コミュニティワークとし ての社会的企業：カナダ・ オンタリオ州の事例から	2016年6月	地域福祉学会第30回記念大会	
8	桜井 政成	自発的行動を支える組織 の マネジメント ～マネジメントモデルか ら コミュニティモデルへ～	2016年6月	日本体育・スポーツ経営学会 第54 回研究集会	
9	桜井 政成	Did Japanese social welfare NPOs fail? - Some evaluation of emerging social enterprises and a major transformation-	2016年7月	the 12th International conference of the International Society for Third Sector Research	
10	サトウ タツヤ	Development of qualitative psychology in Japan: Trajectory Equifinality Approach (TEA)	2016年7月	31st International Congress of Psychology	
11	サトウ タツヤ	The experience of Bifurcation Point: Where DS and TEA meets	2016年9月	The 9th International Conference on the Dialogical Self	
12	サトウ タツヤ	歴史の中のパーソナリテ ィ：WWII終了まで	2016年9月	第25回日本パーソナリティ心理学会	
13	サトウ タツヤ	複線径路等至性アプロ ーチ (TEA) 一分岐点分析の手法と してのクローバー分析	2016年9月	第13回日本質的心理学会	
14	サトウ タツヤ	Self dialogue of Fukushima evacuator, to go home or not that is a question.	2016年10月	In occasion of the 8th Volume of Yearbook of Idiographic Science: Conference: IDIOGRAPHIC APPROACH TO HEALTH	
15	サトウ タツヤ	Sign and culture psychology for multicultural dispute prevention	2016年11月	the 18th Norwegian Conference on Social and Community Psychology	
16	サトウ タツヤ	質的研究がめざすものー TEA (複線径路等至性ア プローチ) とその実習も交え てー	2016年11月	日本青年心理学会第24回大会	
17	サトウ タツヤ	発達心理学と生涯発達心 理学の断絶を超えてー質 的心理学は何ができる か？ 理論・方法論・歴史の立場 から	2017年3月	日本発達心理学会第28回大会	
18	千葉 雅也	フランス現代思想におけ る議論の新規性とは何か	2016年6月	2016年6月	

19	千葉 雅也	メイヤスー『有限性の後で』の後で、有限性の問題を再提示する	2016年6月	2016年6月	
20	千葉 雅也	人類はもう欲望することをやめるかもしれない	2016年7月	2016年7月	千葉 雅也, 柴田 英里, 二村 ヒトシ
21	千葉 雅也	「不気味でないもの」としての建築	2016年10月	2016年10月	
22	千葉 雅也	哲学的勉強論—勉強するのは得ではなく損をするということ	2016年11月	2016年11月	
23	長瀬 修	障害者権利条約と差別禁止、合理的配慮	2016年4月	共生のための障害の哲学第19回研究会・シンポジウム:合理的配慮の現在と今後	
24	長瀬 修	条約起草者との会話	2016年6月	第8回国際障害法サマースクール	
25	長瀬 修	各国における障害者権利条約第30条の実施	2016年9月	障害者権利条約第30条国際会議	
26	長瀬 修	日本における障害者権利条約と第9条(アクセシビリティ)の推進	2016年10月	障害者権利条約第9条(アクセシビリティ)国際会議	
27	長瀬 修	家族と障害者権利条約	2016年11月	台湾社会学会大会「東アジアにおける障害学:現状と課題」セッション	
28	中村 正	対人援助学会理事会企画シンポジウム「相模原事件を考える」	2016年9月	第8回対人援助学会	臼井正樹・梁陽一・岸部
29	中村 正	男性性の傷つきに敏感なジェンダー臨床論のために(その5)-1980年代「ぼっち君」の大学生活にみる男性性ジェンダーの考察-	2016年9月	第8回対人援助学会	國友万裕
30	中村 正	「物語」を手掛かりにした東日本大震災後コミュニティ支援の実践-ホモ・ナラティブリスト(物語る人間)と聴く人が出会う「復興の証人10年プロジェクト」から-	2016年9月	第8回対人援助学会	村本邦子
31	中村 正	情状弁護の質的転換を考える	2016年10月	第17回法と心理学学会	
32	中村 正	大会企画シンポジウム:対話 なぜ、人間の子育てに共同保育が不可欠なのか? ~多様に協働・共同する子育てと暴力・虐待防止~(山極寿一、黒田公子とのダイアローグ)	2016年11月	日本子ども虐待防止学会第23回おおさか大会	
33	中村 正	脱暴力に向けた保護者へのグループ・アプローチ-児相と民間(大学)の協働-	2016年11月	日本子ども虐待防止学会第23回おおさか大会	
34	DUMOUCHEL Paul G.	Vivre avec les robots	2016年4月	Les incidences des nouvelles technologies sur la société: approches interdisciplinaires	
35	富永 京子	若者と政治-若者による運動に内在する「対抗性」と「下位性」の変容-	2016年6月	第64回関東社会学会大会	
36	富永 京子	若者の運動参加と社会運動の「動態」/「静態」-2000年以降の若年層による社会運動を事例として	2016年10月	第89回日本社会学会大会	

37	富永 京子	Contemporary Youth Movements in Taiwan and Japan: The Possibility of Vitalizing Civil Society in East Asia	2016年11月	2016 台湾社會學年會	
38	富永 京子	Consumer Movement in Fluidarity and Individuality: Rethinking Practices of Consumer Movement as Sharing Experiences	2017年3月	Corporate Social Responsibility as Collaboration among the Government, Business and Civil Society	
39	松原 洋子	生殖の自己決定と優生学史の脱歴史化—科学史と生命倫理の関係の検討	2016年9月	コロキウム (立正大学)	
40	松原 洋子	人文社会科学系の研究倫理—イントロダクション	2016年11月	第27回日本生命倫理学会年次大会	
41	松原 洋子	「資料の電子化によるアクセシビリティの向上—プリント・ディスプレイのある人の支援」	2016年6月	全国高等教育障害学生支援協議会 第2回大会分科会「授業のアクセシビリティ、ユニバーサルデザイン、支援の質の担保」	
42	松原 洋子	コメント	2016年8月	第1回「人口と生殖の歴史研究会」	保明綾、杉田菜穂、由井秀樹
43	松原 洋子	Rethinking the medical approach on population quality in the making of abortion policy in Japan	2017年1月	UK-Japan Seminar on the Politics and Practices of 'Low Fertility and Ageing Population' in Post-War Japan	
44	村本 邦子	コミュニティの中で育つ対人援助職者「東日本・家族応援プロジェクト」5年を振り返って	2016年6月	日本コミュニティ心理学会第19回大会	
45	村本 邦子	Transforming the Self to Transform the World	2016年8月	Northeast Asian Regional Peace Building Institute Workshop 2016	
46	村本 邦子	臨地の対人援助学: ハワイの力 (resilience) と Kids Hurt Too Hawaii の強み (strength)	2016年9月	対人援助学会第8回大会	
47	村本 邦子	「物語」を手掛かりにした東日本大震災後コミュニティ支援の実践—ホモ・ナラティブスト (物語る人間) と聴く人が出会う「復興の証人 10年プロジェクト」から—	2016年9月	対人援助学会第8回大会	中村正
48	村本 邦子	支援者支援でコミュニティの力 (レジリエンス) を引き出す—「東日本・家族応援プロジェクト in むつ」の事例をもとに	2016年9月	対人援助学会	中村正・杉浦裕子
49	望月 茂徳	車輪回転速度を用いた車椅子ダンスゲームの開発	2016年9月	第21回日本バーチャルリアリティ学会大会	武田港, 望月茂徳, 南澤孝太
50	望月 茂徳	Development of Wheelchair Dance Game using Wheel Rotation Speed as Input	2017年3月	VRIC 2017 19TH ACM VIRTUAL REALITY INTERNATIONAL CONFERENCE	Minato Takeda, Shigenori Mochizuki and Kouta Minamizawa
51	安田 裕子	ライフサイクルの関係性から死生を読み解く—死生心理学の展開 (1) (周産期・乳児期の死—親になりゆくプロセスのなかで)	2016年4月	日本発達心理学会第27回大会	近藤恵・川島大輔・安田裕子・白神敬介・岡本祐子・浦田悠

52	安田 裕子	Troubles and tasks of the support for victims received damage of domestic violence (DV): Toward the view to support lives of sufferers in community	2016年7月	the 31st International Congress of Psychology ICP2016	
53	安田 裕子	質的研究法入門—生きた実践研究を作る(ワークショップの講師)	2016年8月	日本人間性心理学会第35回大会	森岡正芳・安田裕子
54	安田 裕子	質的研究の産業心理臨床実践における有用性—日常の心理臨床実践に繋げるために(口頭発表の座長)	2016年8月	日本人間性心理学会第35回大会	新田泰生
55	安田 裕子	Diachronic and synchronic approaches in Compositionwork in relation to changes in the self. A dialogue between TEA and MA in Compositionwork (How can the clinical practice of 'Compositionwork' and the qualitative research of 'Narrative Approach' collaborate? A case of a woman's narrative who met a reproductive crisis)	2016年9月	the 9th International Conference on the Dialogical Self	Konopka, A., van Beers, W., Morioka, M., Sato, T., Nameda, A., & Yasuda, Y.
56	安田 裕子	The Experience of bifurcation point: Where DS and TEA meets(Dialogical narratives on the critical phases on lives: From woman's experiences who met with reproductive crisis)	2016年9月	the 9th International Conference on the Dialogical Self	Sato, T., Konopka, A., Banda, K., Yasuda, Y., & Tajima A.
57	安田 裕子	多専門・多職種連携による司法面接の展開—通達からの1年を振り返り、今後の展開を考える	2016年10月	法と心理学会第17回大会	羽瀧由子・赤嶺亜紀・安田裕子・田中晶子・仲真紀子・三原恵・主田英之
58	安田 裕子	公開シンポジウム 子どもをめぐる法と心理臨床	2016年10月	法と心理学会第17回大会	廣井亮一・村瀬嘉代子・二宮周平・山口直也・安田裕子
59	安田 裕子	キャリアの選択と形成—複線径路等至性アプローチを生かした生涯にわたる教育と発達支援	2017年3月	日本発達心理学会第28回大会	安田裕子・サトウタツヤ・番田清美・榎木史子
60	やまだ ようこ	社会・情動発達とコミュニケーション:子どもは他者との関係をどのようにとらえるか	2016年4月	日本発達心理学会第27回大会	
61	やまだ ようこ	レジリエンスを育成するビジュアル・ナラティブ	2016年5月	日本発達心理学会第27回大会	
62	やまだ ようこ	レジリエンスを育成するナラティブ・レッスン:負の体験からしなやかに復活する方法	2016年5月	日本発達心理学会第27回大会	
63	やまだ ようこ	自己語りと人生の時間:生涯発達の視点から	2016年5月	日本発達心理学会第27回大会	
64	やまだ ようこ	私のもの語りから公共する協同態のもの語りへ	2016年5月	京都フォーラム	

65	やまだ ようこ	もの語りと生成継承性 ( Narrative and generativity)	2016年6月	ファーストリテリング研修会	
66	やまだ ようこ	ビジュアル・ナラティブの 生成力	2016年6月	京都フォーラム	
67	やまだ ようこ	Diabetic patient' s visual narratives of illness	2016年7月	7th International Comics & Medicine Conference	Yamada, Y. & Yamada, C
68	やまだ ようこ	Why Do We Feel "Kawaii" ? : A Diverse Joint Method for Visual Narratives	2016年7月	24th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioral Development	Yamada, Y. & Kido, A.
69	やまだ ようこ	Visual narratives of life and illness	2016年7月	The 31st International Congresses of Psychology	
70	やまだ ようこ	Visual narratives and visual mediation in triadic relationships	2016年7月	The 31st International Congresses of Psychology	
71	やまだ ようこ	もの語り心動かす: ビ ジュアル・ナラティブを生 かす	2016年8月	ホンダ技研研修会	
72	やまだ ようこ	人生をもの語ることの意 味: しなやかに再構成する	2016年9月	高松市民大学	
73	やまだ ようこ	「かわいい」とは何か?: 新しい発想を生成するビ ジュアル・ナラティブ	2016年9月	日本質的心理学会第13回大会	
74	やまだ ようこ	ビジュアル・ナラティブの 方法論と現実を変革する イメージーション	2016年9月	日本質的心理学会第13回大会	
75	やまだ ようこ	将来世代と共に公共化す る協同態のもの語り: ビジ ュアル・ナラティブ	2016年10月	京都フォーラム	
76	やまだ ようこ	もの語りと生成力ービジ ュアル・ナラティブ	2017年1月	2017年1月	
77	やまだ ようこ	人間研究のパラダイムシ フトー私の人生と生涯発 達心理学	2017年2月	2017年2月	
78	やまだ ようこ	死生に向き合う際、他者との 関係は生の糧となるか、 それとも重荷となるかー 死生心理学の展開 (2) (指 定討論)	2017年3月	2017年3月	
79	やまだ ようこ	人生のイメージとライフ サイクル	2017年3月	2017年3月	
80	やまだ ようこ	レジリエンスを育成する ビジュアル・ナラティブ (話題提供)	2017年3月	2017年3月	
81	やまだ ようこ	発達心理学と生涯発達心 理学の断絶を超えてー質 的心理学会は何ができる か? (企画)	2017年3月	2017年3月	やまだようこ・サトウタツヤ
82	渡辺 克典	論文紹介: 交差性とディス アビリティ・ハラスメント	2016年6月	科研費・基盤 (C) 「障害女性をめぐる 差別構造への「交差性」概念を用いた アプローチ」第1回研究会	
83	渡辺 克典	堀田義太郎「性差別の構造 について」へのコメント	2016年7月	立命館大学生存学研究センター研究 プロジェクト・フェミニズム研究会 2016年度第3回研究会	
84	渡辺 克典	論文紹介: 「人種」・ジェン ダー・障害をめぐる EU 平 等法の編成	2016年9月	科研費・基盤 (C) 「障害女性をめぐる 差別構造への「交差性」概念を用いた アプローチ」第3回研究会	
85	渡辺 公三	La pensée sauvage et le Japon	2016年6月	Lévi-Strauss et le Japon	
86	安孝淑	韓国難病対策に影響を与	2016年11月	台湾社会学会	

		えた要素			
87	安孝淑	ラジカットに対する日本の反応と家族の辛い判断	2016年4月	韓国 ALS 学術総会	
88	伊東 香純	The Situations of Persons with Psychosocial Disabilities all over the World: Issues Concerning Legal Capacity	2016年9月	障害学国際セミナー	
89	伊東 香純	「心理社会的障害」の意味——障害問題の解消の仕方に関する差異	2016年10月	第59回日本病院・地域精神医学会総会	
90	伊東 香純	精神障害のある被拘禁者の精神医療施設への移送——国連被拘禁者処遇最低原則の改訂過程	2016年10月	法と心理学会第17回大会	
91	伊東 香純	The Alternatives to Psychiatry in Japan	2016年11月	International Network Toward Alternative and Recovery	Kirihara Naoyuki, Ryugan, Kato Makiko, Yasuhara Soichi, Yamada Yuhei, Kinoshita Tomoo, Yamamoto Kiyoshi, Sakane Teruyoshi, Sawada Yumiko, Kaya Satoshi, Taniguchi Mayu, Shirataki Yasuko, Ito Kasumi, and Hasegawa Yui
92	桐原 尚之	Adult Guardianship, Supported Decision-making and Good Practices in Japan	2016年9月	East Asia Disability Studies Forum 2016, Colloquium, Ritsumeikan University Osaka Ibaraki Campus.	KIRIHARA Naoyuki
93	桐原 尚之	Considering Assisted Decision Making from the Perspective of Equality with Others	2016年9月	East Asia Disability Studies Forum 2016, Colloquium, Ritsumeikan University Osaka Ibaraki Campus.	HASEGAWA Yui・OKABE Hiroki・NISHIDA Miki・KIRIHARA Naoyuki
94	桐原 尚之	桐原 尚之、日本の精神障害当事者の運動とオルタナティブ・アプローチ	2016年10月	第59回病院・地域精神医学会大会 (於：東京・練馬文化センター)	桐原尚之
95	桐原 尚之	精神障害による辛さの社会モデル	2016年11月	障害学会第13回大会 (於：東京・東京家政大学)	桐原尚之
96	桐原 尚之	The Alternatives to Psychiatry in Japan	2016年11月	International Network Toward Alternative and Recovery 2016, Lavasa International Convention Center, Lavasa.	KIRIHARA Naoyuki, RYUGAN, KATO Makiko, YASUHARA Soichi, YAMADA Yuhei, KINOSHITA Tomo, YAMAMOTO Kiyoshi, SAKANE Teruyoshi, KAYA Satoshi, TANIGUCHI Mayu, SHIRATAKI Yasuko, ITO Kasumi, HASEGAWA Yui,
97	桐原 尚之	Re-examining the Utility Value of Mechanical Ventilators to Enable the Long-Term Survival of ALS Patients	2016年12月	The 27th International Symposium on ALS/MND, Dublin Convention Center, Dublin.	HASEGAWA Yui, KIRIHARA Naoyuki, NISHIDA Miki, SAKAI Miwa,
98	梁陽日	「現場から人間の尊厳を考える」	2016年9月	対人援助学会 第8回年次大会 理事会企画シンポジウム	梁陽日 他

99	三輪 佳子	日本のDV被害女性向け公的支援における『要保護女子』像とDV被害者自身による脱却	2016年9月	障害学国際セミナー2016	
100	三輪 佳子	A Concept “Women Necessitating Protection” as a Cause of Poverty among Women in Japan	2017年2月	AAAS 2017 Annual meeting	
101	飯田 奈美子	「対人援助におけるコミュニティ通訳者の役割考察—通訳の公正介入基準の提案—」	2016年9月	第17回日本通訳翻訳学会	
102	飯田 奈美子	「母子保健支援における保健師と通訳者の連携についての提案—保健師・外国人利用者・通訳者に対するアンケート調査結果から—」	2017年1月	第34回びわ湖国際医療フォーラム	
103	蒲生 諒太	「心茶会」という企て—太平洋戦争中の久松真一について—	2016年7月	統合人間学会 第二回学術大会	
104	蒲生 諒太	組織間連携による学習プログラム協同開発—大学博物館と学校現場での教材・プログラム実施における「差異」に着目して	2016年9月	日本教育工学会 第32回全国大会	
105	蒲生 諒太	「研究」と「現場」の間でのキャリア形成—学校改革へのアクションリサーチについての反省的検討	2016年9月	日本質的心理学会 第13回大会	
106	蒲生 諒太	大規模講義におけるソマティクス実習—私立大学での事例とその検討—	2016年11月	日本トランスパーソナル心理学/精神医学会 第17回学術大会	
107	小西 真理子	「女性のニーズの擁護か、男性権力への服従か—修復的正義のDV適用をめぐるフェミニストの衝突」	2016年6月	日本女性学会 2016年度大会	
108	小西 真理子	“The Ethical Conflict on Abortion: From Perspective of Gilligan’s Ethic of Care”	2016年9月	17th International Nursing Ethics Conference & 2nd International Ethics in Care Conference	
109	小西 真理子	「ケアの倫理と愛の現実—重なりと異なるの分析から」	2016年11月	第69回関西倫理学会大会	
110	小西 真理子	「中絶における女性の倫理的葛藤—ギリガンによるケアの倫理の視点から—」	2016年12月	第28回日本生命倫理学会	
111	櫻井 浩子	「胎児緩和ケア」の重症新生児への適用に対する批判的検討	2016年12月	第28回日本生命倫理学会年次大会	
112	孫 美幸	東北地方の民話集に見る「多文化共生」と「いのち」の思想	2016年6月	2016年度ホリスティック教育研究大会	
113	孫 美幸	排外主義の闇に抗う教育実践とは？～「ケアリング」・「共苦」・「共生み」の思想から	2017年2月	第48回人権交流京都市研究集会	
114	田邊 健太郎	Diana Raffman on Nuance Ineffability	2017年1月	Art, Aesthetics and Beyond: 3rd British Society of Aesthetics	

				Postgraduate Conference	
115	能勢 桂介	"Limits of Local Policy and "Citizenship"—A Case of "B" city in Y Prefecture"	2016年10月	International Metropolis Conference 名古屋国際会議	
116	番匠 健一	日本統治期台湾における「植民論」と Settler Colonialism:後藤新平と高岡熊雄の關係に着目して	2016年5月	第6回日台アジア未来フォーラム「東アジアにおける知の交流—越境、記憶、共存—」	
117	村上 潔	「ウーマンリブと「性」—産む自由の追求(との距離)」	2016年4月	「原一男監督と考える 70年代の生の軌跡—障害・リブ・沖縄 ～初期ドキュメンタリー作品上映とトーク～」(於:立命館大学朱雀キャンパス5F大ホール)	立岩真也・村上潔・大野光明・小泉浩子
118	村上 潔	「[Lecture & Workshop] ZINEを通して学ぶこと・できること—思いをシェアする/運動を知る/文化をつくる」	2016年11月	*発表題目と同じ(於:ナゴヤ駅西 サンサロ*サロン)	
119	村上 潔	「[Lecture & Workshop] アクティビズムと ZINE—マージナルな立場からの発信とその共有」	2017年1月	「丹後もちフェス 2017」(於:京都YWCA)	
120	村上 潔	「[トークショー] ZINE・ラジオ・都市空間—DIY文化の「場」	2017年2月	「LOSER OSAKA ZINE FAIR 2017 #1」(於:LOSER)	
121	由井 秀樹	"Teaching the 'Correct' Way to Marry and Reproduce: The Government's Attempt to Birth Rate in Japan,"	2017年1月	UK-Japan Seminar on the Politics and Practices of 'Low-Fertility and Ageing Population' in Post-War Japan	
122	由井 秀樹	「戦後日本の代理懐胎—読売新聞『人生案内』の分析(1949-1975)」	2016年12月	日本生命倫理学会第28回年次大会	
123	由井 秀樹	「戦後日本の身上相談にみる不妊事例」	2016年9月	日本家族社会学会第26回年次大会	
124	金 友子	「60年代在日韓国人学生の日韓条約反対闘争:日本での居住権をめぐる」	2016年9月	第3回東国大学校文化学院叙事文化研究所学術大会「戦後在日朝鮮人の空間と場所」於:東国大学校(韓国・ソウル) ※招待講演	
125	川端 美季	「近代日本の国民道徳論における「潔白性」についての考察」	2016年11月	日本医学哲学倫理学会、於兵庫県立大学	
126	川端 美季	解題:『近代日本の公衆浴場運動』	2017年1月	『近代日本の公衆浴場運動』合評会、於キャンパスプラザ京都	
127	堀田 義太郎	特定の集団の成員に対する差別は、なぜ特に悪質になるのか—集団基準と行為の意味	2016年5月	日本哲学会第75回大会、於・京都大学	
128	堀田 義太郎	性差別と差別の体系性	2016年9月	日本倫理学会第67回大会、於・早稲田大学	
129	堀江 有里	プロテスタンティズムにおける規範的家族—クイア神学からの批判的考察	2016年6月	日本女性学会・2016年度大会、於・明治学院大学	
130	岡野 英之	"Never-ending Nation-building? Examining 'Frontiers' of Contemporary Modern-states,"	2016年5月	IUAES Inter-Congress 2016, Hotel Palace (Dubrovnik, Croatia)	



131	岡野 英之	エボラ出血熱の拡大と人々の対応 —シエラレオネの事例から—	2016年6月	日本アフリカ学会第53回学術大会、日本大学生物資源科学部	
132	岡野 英之	"Managing the Ebola Crisis in Sierra Leone: How Local People and the Government Achieved Collaboration?"	2016年12月	Graduate School of International Development, Nagoya University	
133	岡野 英之	"Examining African Politics and Armed Conflict from Global and Historical Perspective,"	2017年1月	Special Seminar on Peacebuilding and Governance, Graduate School of International Development, Nagoya University	
134	今里 基	韓国にルーツを持つ若者のエスニックアイデンティティ	2016年6月	第13回日韓次世代学術フォーラム	
135	八木 達祐	観光客との遭遇を日常化する —ケニア・ナイロビのスラムツアーに関する人類学的研究—	2016年6月	日本アフリカ学会	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	「死生観とナラティブ」講演会	立命館大学 衣笠キャンパス	2016年6月	約30名	ナラティブと質的研究会（日本発達心理学会分科会）
2	国際ワークショップ「デモクラシーにおけるベーシック・インカム」	立命館大学 衣笠キャンパス	2016年6月	約30名	科学研究費・基盤研究(C)「ベーシック・インカムとESDとの哲学的連関についての日独共同研究」（研究代表者：別所良美）
3	生存をめぐる制度・政策 連続セミナー「障害／社会」第8回「東・東南アジアにおける障害者運動の動向——中国、台湾、香港、そして知的障害者」第9回「成年後見制度／意思決定支援の論点」	立命館大学 朱雀キャンパス	2016年7月	約40名	
4	公開講演会 ドキュメンタリー映画「首相官邸の前で」上映とトーク	立命館大学 衣笠キャンパス	2016年7月	約100名	
5	第3回現代社会エスノグラフィ研究会	立命館大学 衣笠キャンパス	2016年9月	約20名	立命館大学生存学研究センター研究プロジェクト・現代社会エスノグラフィ研究会 課題「生の技法の人文社会学—「当事者」から多角的に広がる関係へ」
6	障害学国際セミナー 2016 「法的能力（障害者権利条約第12条）と成年後見制度」	立命館大学 大阪いばらきキャンパス	2016年9月	約186名	
7	フェミニズム研究会 第6回公開研究会 「犯罪被害者におけるヴァルネラビリティと修復的司法——性暴力とDVにおける対話の可能性」	立命館大学 朱雀キャンパス	2016年10月	約20名	立命館大学生存学研究センター研究プロジェクト・フェミニズム研究会
8	フェミニズム研究会 第7回（2016年度・第2回）公開研究会 『（抵抗）としてのフェミニズム』解題——田崎英明さんを囲んで』	立命館大学衣笠キャンパス	2016年12月	約20名	立命館大学生存学研究センター研究プロジェクト・フェミニズム研究会
9	『近代日本の公衆浴場運動』合評会	キャンパスプラザ京都	2017年1月	約20名	立命館大学先端総合学術研究科院生プロジェクト「科学史・医学史研究会」
10	現代社会エスノグラフィ研究会 2016年度第4回（公開・通算第12回）「架橋する「自」と「他」：移動する人々への長期的・複数地調査から」	立命館大学 衣笠キャンパス	2017年1月	約20名	立命館大学生存学研究センター研究プロジェクト・現代社会エスノグラフィ研究会 課題「生の技法の人文社会学—「当事者」から多角的に広がる関係へ」
11	岡村淳監督 ブラジル・ドキュメンタリー映画企画	立命館大学 衣笠キャンパス	2017年2月	約50名	
12	朝鮮学校が問うもの——映画『蒼のシンフォニー』上映会	立命館大学 衣笠キャンパス	2017年2月	約70名	立命館大学コリア研究センター

13	生存をめぐる制度・政策 連続セミナー「障害／社会」第10回「中国における障害者の権利：最新動向と将来展望」	立命館大学 朱雀キャンパス	2017年2月	約40名	日本学術振興会学術研究助成基金助成金・基盤研究(C)「障害者の権利条約の実施過程の研究」(25380717)
14	消えた「社会的入院」問題——「重度かつ慢性」基準化で始まる新たな長期入院	立命館大学 朱雀キャンパス	2017年3月	約70名	病棟転換型居住系施設を考える会、全国「精神病」者集団

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等		研究期間
1	大谷 いづみ	「社会に広がる「迷惑視」意識」	京都新聞		2017年2月25日
2	小川 さやか	都市と地方の「見えない」分断線(TV出演)	NHK (Eテレ) 新世代が解くにつぼんのジレンマ		2016年9月
3	小川 さやか	ラジオゲスト出演	FM ノックファイブ木村達也「ビジネスの森」		2016年11月
4	小川 さやか	「その日暮らし」の生き方・経済(取材記事掲載)	朝日新聞		2016年12月
5	小川 さやか	「その時々で支えあう社会」(取材記事掲載)	山陽新聞		2017年1月
6	小川 さやか	「ぼくちの人生のタフさ」(取材記事掲載)	高知新聞		2017年1月
7	小川 さやか	「適度に支えあう緩やかな関係性」(取材記事掲載)	山梨新聞		2017年1月
8	小川 さやか	「“Living for today” 世界にはこんな生き方もある」(取材記事掲載)	Wedge Infinity		2016年10月
9	小川 さやか	「アフリカの路上で古着を売ってみた」(取材記事掲載)	SEKAI		2016年11月
10	桜井 政成	「大災害における災害弱者への配慮～災害時の人権問題～」(講演)	徳島市・佐那河内村人権教育研究大会 高校部会(徳島北高校)		2016年10月19日
11	桜井 政成	「大災害における災害弱者への配慮とコミュニティ」(講演)	なごや災害ボランティア連絡会11月勉強会(名古屋市市民活動推進センター)		2016年11月10日
12	サトウ タツヤ	質的分析アナリスト育成プログラムの作成			2016年4月1日～2017年3月31日
13	サトウ タツヤ	釜石の奇跡～危機状況で生きる普段からの準備とは～	京都府危険物安全大会		2016年6月10日
14	サトウ タツヤ	東日本大震災と心理学:人生径路の問題	立命館大学梅田キャンパス		2017年1月18日
15	サトウ タツヤ	質的研究とは何か	日本心理学会若手の会 異分野間協働懇話会		2017年3月7日
16	千葉 雅也	〔審査員〕 TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD 2016			2016年6月11日
17	千葉 雅也	〔講演〕勉強の哲学—世間の大きな流れとは「別のタイムライン」を生活につくる	朝日カルチャーセンター中ノ島		2016年11月11日
18	富永 京子	社会運動論／国際社会学 富永京子	Yahoo!ニュース(個人)		2016年9月1日～
19	富永 京子	ポリティカル・コレクテネスのジレンマ(TV出演)	NHK (Eテレ) 新世代が解くにつぼんのジレンマ		2016年7月
20	富永 京子	「社会運動サブカルチャー」の正体(立命館大学准教授・富永京子インタビュー)	ホンシエルジュ(Web)		2016年12月
21	富永 京子	右肩下がりの君達へ 佐藤優×富永京子	FILT(Web)		2016年11月
22	富永 京子	マンガを社会学する	ホンシエルジュ(Web)		2016年4月～現在
23	長瀬 修	「検証・相模原19人刺殺事」(コメント)	読売新聞		2016年7月

24	長瀬 修	「娘にいなくなれなんて・・・許せない」(コメント)	朝日新聞	2016年7月
25	長瀬 修	「被害者個人の視点大切に」(コメント)	神奈川新聞	2016年7月
26	長瀬 修	「県警など被害者名非公表」(コメント)	京都新聞	2016年7月
27	長瀬 修	「数字しか伝わらない」(コメント)	デイリー東北	2016年7月
28	長瀬 修	「被害者匿名疑問の声」(コメント)	産経新聞	2016年7月
29	長瀬 修	「擁護者に生活保護」(コメント)	毎日新聞	2016年8月
30	長瀬 修	「海外から犠牲者に心寄せ」(コメント)	神奈川新聞	2016年8月
31	長瀬 修	「犠牲者へイト NO 世界から」(コメント)	朝日新聞	2016年8月
32	長瀬 修	“Disabled victims of mass killing in Japan kept in the shadow “(コメント)	NY Times	2016年9月
33	松原 洋子	変革のリーダーシップ:ダイバーシティから生まれるイノベーション(モデレーター)	平成28年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」採択記念事業、立命館大学衣笠キャンパス	2016年10月19日
34	松原 洋子	優生思想の歴史と現在	第2回認定遺伝カウンセラーアドバンス研修会, AP品川	2016年10月29日
35	松原 洋子	フォーラム: 障害者・本・図書館員をつなぐ図書館づくりのためにII	第18回図書館総合展、パシフィコ横浜	2016年11月9日
36	松原 洋子	「(相模原事件が投げかけるもの: 下)「優生」消えても、残る偏見」(コメント)	朝日新聞	2016年8月26日
37	松原 洋子	「シリーズ 障害のある女性: 第2回 本当は産みたかったー強制不妊手術・54年目の証言」(TV出演)	ハートネットTV (ETV)	2016年7月6日
38	松原 洋子	優生政策と医療・福祉	湖北小児神経懇話会特別講演会、長浜市、湖北医療サポートセンター	2017年2月26日
39	村本 邦子	京都新聞現代の言葉「ハワイアン主権回復運動に学ぶ」	京都新聞	2016年4月22日
40	村本 邦子	京都新聞現代の言葉「被災地をつなぐ」	京都新聞夕刊	2016年6月20日
41	村本 邦子	「性暴力被害女性が支援団体: 苦しみ抜け出せる」コメント	南日本新聞	2017年1月30日
42	望月 茂徳	SLOW ACADEMNY in 未来館 南村千里, 望月茂徳, 高橋匡太, 他 STUDY1: 「音」って何? 音の伝え方を考えよう (2016/5/28)、 STUDY2: 音を「見る」。音をどう演出する? (2016/6/25)、STUDY3: 音のクレヨンで虹を描こう (2016/7/23)	日本科学未来館	2016年5月28日 ~2016年7月23日
43	望月 茂徳	車椅子DJ、車椅子DanceGange	超福祉展2016 渋谷ヒカリエ、みやしたこうえん	2016年11月8日 ~2016年11月13日
44	望月 茂徳	「超福祉展が渋谷ヒカリエでスタート、見どころを紹介」(取材記事)	TimeOut (Web)	2016年11月9日
45	望月 茂徳	「切ると野菜が喋りだす」(取材記事)	京都新聞	2016年8月17日
46	望月 茂徳	「野菜がしゃべり出す!？」(取材記事)	中日新聞	2016年8月23日
47	望月 茂徳	「車椅子DJ 車輪がレコード 立命大准教授、製品化目指す」(取	毎日新聞	2017年2月1日

		材記事)		
48	望月 茂徳	「リオバラ閉会式アーティストによるパフォーマンスがアートナイトで」(取材記事)	TimeOut (Web)	2016年10月21日
49	安田 裕子	日本学術振興会特別研究員申請 申請内容ファイル作成のポイント(講習会)	茨木市・立命館大学、2018年度 日本学術振興会特別研究員申請ガイダンス	2016年4月3日 ～2016年4月5日
50	安田 裕子	日本学術振興会特別研究員申請 申請内容ファイル作成のポイント(講習会)	草津市・立命館大学、2017年度 日本学術振興会特別研究員申請ガイダンス	2016年4月4日
51	安田 裕子	日本学術振興会特別研究員申請 申請内容ファイル作成のポイント(講習会)	京都市・立命館大学、2017年度 日本学術振興会特別研究員申請ガイダンス	2016年4月5日
52	安田 裕子	講演「トラウマとしての虐待被害と心理ケア」/演習「急性期の介入・支援での連携について」/演習「長期的な支援での連携について」(実務家研修)	立命館大学大阪いばらきキャンパス C272・271 ラーニングスタジオ、「多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装」(研究代表者:仲真紀子)主催 子どもと関わる実務家のための研修「虐待を受けた子どもへの支援:被害確認と心身のケア—多職種専門家における効果的な連携の在り方について」	2016年10月30日
53	安田 裕子	家庭は子どもの安全基地(上)(記事)	聖教新聞	2017年1月15日
54	安田 裕子	家庭は子どもの安全基地(下)(記事)	聖教新聞	2017年1月22日
55	安田 裕子	「子どものライフとその支援—生きる力を育もう」(研修会)	大阪市教育センター、大阪市教育センター主催 EC研修会(教育センター研修会)	2017年2月21日
56	安田 裕子	TEA(複線径路等至性アプローチ)(講演とデータ分析実習)	東京都文京区・東京大学本郷キャンパス赤門総合研究棟2階200・208、日本質的心理学会研究交流委員会主催 対話する方法論:TEA(複線径路等至性アプローチ)×IPA(解釈学的現象学的分析)	2017年3月20日
57	伊東 香純	フィールドワーク	ニュージーランド・ウェリントン	2016年8月22日 ～9月16日
58	伊東 香純	フィールドワーク(会議の通訳)	インド・ブネー	2016年11月21～24日
59	谷村 ひとみ	部落解放・人権研究所研究プロジェクト『包摂型社会のあり方研究会』(研究代表者 大阪市立大学 福原宏幸)	桂人権コミュニティセンター	2016年7月
60	梁陽日	「SAYAMA—みえない手錠を外すまで」(第69回毎日映画コンクールドキュメンタリー映画賞受賞)生野上映会(含む金聖雄監督インタビュー講演会)	在日大韓基督教大阪教会	2016年4月10日
61	梁陽日	公益財団法人滋賀県人権センター主催(後援 滋賀県・滋賀県教育委員会)エキスパートスクール「人権の友」ファシリテーター養成講座講師 ・7月1日セッション①「人権って何だろう?」人権問題を考えるワークショップ ・10月28日セッション⑧障がい者の人権 『障害者差別解消法』制定を踏まえて、セッション⑨在日韓国・朝鮮人の人権について ・11月11日・セッション⑩「あらゆる人・組織をいかにグループダイナミックス(集団力動の方法を学ぶ)」1、セッション⑪	会場:公益財団法人滋賀県人権センター	7月1日(金)～11月25日(金)の8日間のうち、4日間担当

		「あらゆる人・組織をいかにグループダイナミックス(集団力動の方法を学ぶ)」2 ・11月25日セッション⑫「エンパワメント(生きる力)発揮のための演習」、セッション⑬「学び合いの評価会・まとめ」		
61	梁陽日	大阪府主催 大阪労働局後援公正採用選考ステップアップ研修 講師 「エンパワメントと人権」	会場:大阪府立労働会館南ホール(10月)、堺市産業振興センター(17年2月)	10月14日、2017年2月3日
62	三輪 佳子	「住まい」による生活困窮者のエンパワメント——アメリカ・ワシントンDCの「Pathways to Housing DC」にて	『研究の現場』, 立命館大学生存学研究センターWebサイト	2016年12月1日
63	太田 啓子	公益財団法人三菱財団「障害のある人から学ぶまちづくり協同研究—障害のあるリサーチャーおよび学生サポーターの育成」	報告書『参加のための調査活動 みんなが行きたくなるカフェってどんなカフェ?』	2016年
64	桐原 尚之	「【ニュース・解説】措置入院、支援手厚く——相模原殺傷最終報告」	読売新聞	2016年12月9日
65	桐原 尚之	「措置入院中から——退院後の支援計画」	朝日新聞	2016年12月9日
66	桐原 尚之	「相模原市の障害者支援施設における事件の検証及び再発防止策検討チーム」報告書について	京都新聞	2016年12月9日
67	櫻井 浩子	情報系大学院生に対する実践教育の効果測定	工学教育, 65(1), 52-57, 2017	2016年
68	櫻井 浩子	女性IT技術者の働き方に関するアンケートから見えてきたこと	日本ソフトウェア科学会第33回大会, web, 6頁, 2016	2016年
69	永田 貴聖	在日コリアンと在日フィリピン人たちが集う〜京都〜	『みんなばく E-NEWS』 ( <a href="http://www.minpaku.ac.jp/museum/enews/179">http://www.minpaku.ac.jp/museum/enews/179</a> )	2016年5月1日
70	永田 貴聖	「フィリピン移住者と韓国・韓国とフィリピンのかかわり」、	国立民族学博物館、愛知県立旭丘高校 みんなく講義 場所:国立民族学博物館	2016年6月25日
71	永田 貴聖	フィリピンから海外に向かう人びと—日本と韓国の事例を中心に	千里文化財団国立民族学博物館友の会、第457回みんなく友の会講演会、場所:国立民族学博物館、	2016年8月6日
72	村上 潔	"[Serial Publication] Notes on Grrrl/Queer/Feminist Zines" (全15回)	"[Serial Publication] Notes on Grrrl / Queer / Feminist Zines" (全15回)	2016年4月~8月
73	村上 潔	『生存学の企て』刊行記念トーク: カライモブックスで水俣と生存学をつなげてみる」	『生存学の企て』刊行記念トーク: カライモブックスで水俣と生存学をつなげてみる」	2016年5月
74	村上 潔	「Morning Zine Circle」	「Morning Zine Circle」	2016年10月~継続中
75	村上 潔	行司千絵(記者)「自身の思いつづる「ZINE」——歴史的背景や意義探る:中京で14日」(取材記事)	京都新聞	2016年10月12日
76	川端 美季	タカラジェンヌをノが演じるということ	ジェンダー論招聘講演、於・神戸学大学	2016年12月
77	堀江 有里	『レズビアン』という生き方——キリスト教のなかで『性』を考える	日本聖公会ジェンダープロジェクト学習会、於・日本聖公会 大阪聖パウロ教会	2016年4月
78	堀江 有里	映画『Call Me Kuchu』をめぐるトーク	アムネスティ映画祭 in 関西、於・クレオ大阪中央	2016年5月
79	堀江 有里	名付けと自己決定をめぐるレズビアン・アイデンティティーズ——ジェンダーとセクシュアリティの交差点	京都自由大学	2016年5月
80	堀江 有里	反婚をめぐる	フェミニスト神学の会、於・本基督教団船越教会	2016年8月

81	堀江 有里	『レズビアン』の視点からキリスト教を読む——(分断)の時代に(つながり)を求めて	賀川総合研究所「現代社会とキリスト教」講座、於・賀川豊彦記念館	2016年10月
82	堀江 有里	教会の異性愛主義と向き合う——(怒り)の共同性に向けて	第2回性と人権キリスト教全国連絡会議・主題講演、於・シーバル須磨	2016年9月
83	堀江 有里	「ピア・サポートの現場から——レズビアンとして、キリスト者として」(夜の部)、「キリスト教の異性愛主義を問う——クィア神学の視点から」(昼の部)	第25回フィーリーデー、於・日本基督教団兵庫教区クリスチャンセンター	2016年10月
84	堀江 有里	映画上映とトーク	「堀江有里×連連影展」(主催・FAV 連連影展、共催・明治大学労働教育メディアセンター、横浜YWCAほか)	2016年12月、2017年1月、2017年2月(予定)
85	堀江 有里	キリスト教の『家族主義』を考える——クィア神学の視点から	立教大学文学部キリスト教学科主催公開講演会、於・立教大学	2017年1月
86	堀江 有里	『レズビアン=反天皇制』の理念的可能性	女性と天皇制研究会・連続講座「ジェンダーと天皇制」、於・北沢タウンホール	2017年2月(予定)
87	堀江 有里	「(喪)は誰のものか——クィア・スタディーズと(弔い)の政治」(シンポジウムタイトル)	国際基督教大学ジェンダー研究センター・公開シンポジウム、於・国際基督教大学	2017年2月(予定)
88	山口 真紀	<女>とは誰か——男女共同参画をめぐる3つの誤解	男女共同参画講義ゲスト、於・兵庫県立大学	2016年11月17日
89	番匠 健一	「玉井さん作品 若手研究者注目 別海 映画、文学、開拓テーマに」(取材記事)	釧路新聞	2017年2月2日
90	番匠 健一	「根釧原野というトポス」(取材記事)	釧路新聞	2017年2月6日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	サトウ タツヤ	日本質的心理学会	日本質的心理学会優秀フィールド論文賞		2016年9月
2	村本 邦子	日本コミュニティ心理学会	日本コミュニティ心理学会第19回大会優秀発表賞	コミュニティのなかで育つ対人援助職者	2016年6月
3	望月 茂徳	公益財団法人学習ソフトウェア情報研究センター	平成28年度第32回学習デジタル教材コンクール 優良賞	どこカナ?なにカナ?そうだったのか! ガーナ共和国~社会・文化・芸術と国際理解~	2016年6月
4	伊東 香純	立命館大学リサーチプロポーザルコンテスト	敢闘賞	精神障害者のグローバルな社会運像——連帯の中の多様性	2016年11月
5	小西 真理子	南山大学社会倫理研究所	第十回社会倫理研究奨励賞審査員賞	論文「ケアの倫理に内在する自立主義——相互依存・依存・共依存の検討を通じて」(『倫理学年報』vol.65)	2017年2月
6	小川 さやか	紀伊国屋じんぶん大賞	12位入選	『「その日暮らし」の人類学』	2017年1月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	井上 彰	カタストロフィの分配的正義論	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
2	大谷 いづみ	生命倫理学・死生学における安楽死・尊厳死論の変容とキリスト教の歴史的社会的影響	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
3	小川 さやか	アジア-アフリカ諸国間の模造品取引に関する文化人類学的研究—携帯電話を事例に	若手研究(A)	2016年4月	2020年3月	代表
4	桜井 政成	カナダのNPOによる貧困地域支援にみる社会的企業化と市民参加促進の架橋モデル	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表

5	サトウ タツヤ	グローバリゼーション時代における新しい心理学史の叙述	挑戦的萌芽研究	2015年4月	2018年3月	代表
6	長瀬 修	障害者の権利条約の実施過程の研究	基盤研究(C)	2013年4月	2018年3月	代表
7	長瀬 修	社会的障害の経済理論・実証研究	基盤研究(S)	2012年5月	2017年3月	分担
8	中村 正	親密な関係における暴力加害者の特徴と暴力から離脱する過程の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
9	西 成彦	比較植民地文学研究の新展開-「語圏」概念の有効性の検証	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
10	富永 京子	グローバルな相互理解の場としての国際政治活動プロセスに関する実証研究	若手研究(B)	2015年4月	2018年3月	代表
11	富永 京子	社会運動のサブカルチャー化—G8 サミット抗議行動の経験分析	研究成果公開促進費	2016年4月	2017年3月	代表
12	富永 京子	市民社会とともに歩むコモンズ—中山間地域活性化の数理社会学的研究—	基盤研究(B)	2016年4月	2019年3月	分担
13	松原 洋子	戦後日本の人工妊娠中絶の制度史：医療・人口・地政学	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
14	村本 邦子	レジリエンスを引き出す災害後のコミュニティ支援モデルの構築	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
15	美馬 達哉	直流刺激と歩行運動のハイブリッド型リハによる下肢機能再建とその脳内機構の解明	基盤研究(B)	2015年4月	2019年3月	代表
16	美馬 達哉	発振操作による動的ネットワークの再組織化	新学術領域研究	2015年6月	2020年3月	代表
17	美馬 達哉	「老成学」の基盤構築—く媒介的共助>による持続可能社会をめざして	基盤研究(B)	2015年7月	2019年3月	分担
18	安田 裕子	人の生の潜在性と可能性に接近する「TEA—文化をとらえ、分岐をつくる	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
19	やまだ ようこ	「かわいい」とは何か—ビジュアル・ナラティブによる多文化心理学の異種むすび法	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2019年3月	代表
20	渡辺 公三	環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築	基盤研究(A)	2013年10月	2017年3月	代表
21	櫻井 悟史	死刑の歴史社会学—刑罰史研究の新たな視座	若手研究(B)	2015年4月	2018年3月	代表
22	桐原 尚之	精神障害者の運動の現代史—抑圧への抵抗実践からの問い直し	科学研究費特別研究員奨励費	2014年4月	2017年3月	代表
23	孫 美幸	日本と韓国における多文化共生教育の新たな地平	研究成果公開促進費（学術図書）	2016年度		代表
24	岡野 英之	武力紛争の社会的要因に関する研究 —シエラレオネ内戦後の首長層と都市若年層—	若手研究(B)	2016年4月	2020年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	立岩 真也	病者障害者運動史研究—生の現代から未来へ	研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
2	立岩 真也	障害者権利条約 12 条と成年後見制度について東アジアの現状と課題をふまえた障害学 (disability studies) の観点からの検討	研究成果国際発信プログラム	2016年4月	2017年3月	代表
3	立岩 真也	意思決定支援研究	明治安田こころの健康財団 第52回 (2016年度) 研究助成 (社会学・社会福祉学的研究)	2016年6月	2017年3月	代表
4	サトウ タツヤ	QOL を脅かす不定状況とそこからの回復・移行に関する質的研究	研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
5	サトウ タツヤ	ナラティブ—概念と実践の再編成	研究推進プログラム 科研費獲得推	2016年9月	2017年3月	代表

			進型			
6	サトウ タツヤ	Time in Life and Life in Time: Principal Ideas on Trajectory Equifinality Approach	学術図書出版推進プログラム	2016年8月	2017年3月	代表
7	DUMOUCHEL Paul G.	Sensory anthropology, affective coordination and artificial empathy	研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年7月	2017年3月	代表
8	富永 京子	日本のクライシス・マネジメントに対する三つの観点：被害者、行動者とリーダー	平和中島財団 外国人研究者等招致助成	2016年6月	2016年7月	代表
9	富永 京子	社会運動と若者－日常と出来事を往還する政治	学術図書出版推進プログラム	2016年8月	2017年3月	代表
10	長瀬 修	第7回障害学国際セミナー	村田学術振興財団研究会助成	2016年9月	2017年3月	代表
11	美馬 達哉	脳刺激ニューロフィードバックによる脳内伝達物質制御	研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
12	美馬 達哉	進行した ALS 患者等を含む障害者のコミュニケーション支援機器の開発	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)	2016年4月	2017年3月	分担
13	美馬 達哉	希少難治性脳・脊髄疾患の歩行障害に対する生体電位駆動型下肢装着型補助ロボット (HAL-HN01) を用いた新たな治療実用化のための多施設共同医師主導治験の実施研究	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)	2016年4月	2017年3月	分担
14	望月 茂徳	共生型高付加価値社会におけるインクルーシブなインタラクティブメディアの開発	研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
15	安田 裕子	「司法面接と心理臨床の連携」	国立研究開発法人科学技術振興機構 受託研究	2015年11月	2018年3月	代表
16	やまだ ようこ	レジリエンスを育成する心理・医療・教育プログラム－ビジュアル・ナラティブと巡礼	研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
17	渡辺 克典	ディスアビリティ・ヘイト・クライムの国際比較研究	研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2016年6月	2017年3月	代表
18	岡野 英之	シエラレオネの農村部指導者はエボラ出血熱の感染の拡大を防ぐためにいかなる役割を果たしたのか	三菱財団人文科学研究助成	2016年4月	2017年3月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当無し								